

使用方法・リールの準備

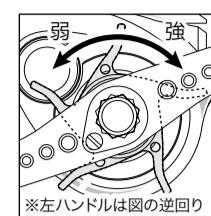
※説明書中のイラストは実際の製品と異なる場合がございます。

■メカニカルブレーキノブ

DC ブレーキを搭載したリールでは、メカニカルブレーキの設定方法が従来のブレーキシステムとは異なります。通常はスプールが軸方向にガタつかない程度にゆるめてお使いください。メカニカルブレーキを必要以上に締め付けると、DC システムが本来の性能を発揮できません。ただし、想定以上の強風条件などではメカニカルブレーキを締め付ける必要があります。

■スタートドラグ

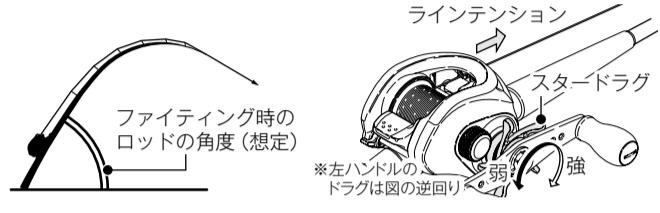
ハンドル側から見て、時計回りに（レフトハンドルは反時計回りに）回すことでドラグが締まります。



■ドラグの調整方法

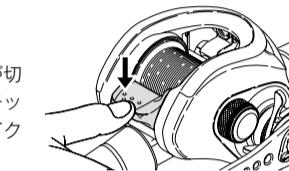
ドラグとは、その強弱を調整することにより、急激な魚の引きに対し、スプールが逆転して糸切れ（ラインブレイク）を防ぐ機構です。又、その逆転時に発生する抵抗値をドラグ力と言います。

- 実際に使用される竿にリールをセットし糸をガイドに通してください。
- クラッチを“ON”の状態にして、想定されるファイティング時のロッドの角度を保って、図のように糸を引き出しながらスタートドラグの締め付けを調節してください。その際、出来るだけ実際の状況に近づける為、対象とする魚の泳ぐスピードを想定して糸を引き出してください。



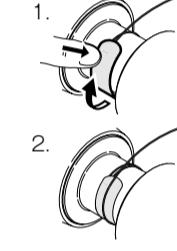
■クラッチ操作方法

親指でクラッチレバーを下に押すとクラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。カチッとき音がするまで確実にクラッチレバーを押してクラッチを切ってください。



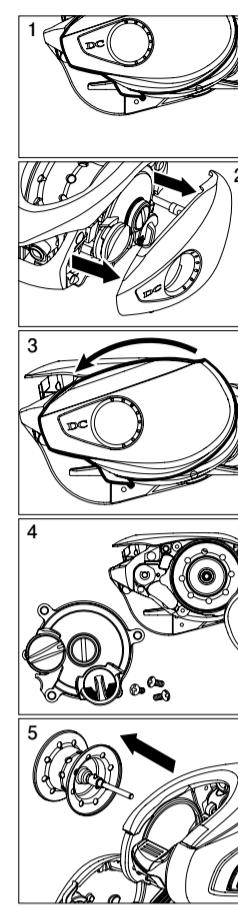
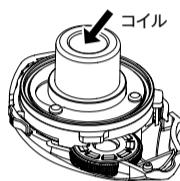
■スプールへの糸止め方法（糸を巻く時）

- スプールにラインを結び、その結び目の上に市販のテープ等をピッタリと確実に貼ります。（指などで強く押してください。）
- シールが確実に貼られていることを確認してラインを巻き込みます。（最初は少しゆっくりと巻くようにします。）
- 特にPEラインは滑り易く、伸びがないのでナイロンラインなどよりも強いテンションをかけてきっちりと巻くことが必要です。



■分解時のご注意

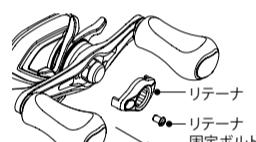
- 電子部品は、全て DC ブレーキユニット（本体枠 B 受）の内部に取り付けられています。
- 本体枠 B 受に装着されているコイル（右図）に力を加えないようご注意ください。変形するとトラブルの原因になります。



■ハンドル着脱時のご注意

ハンドルの着脱をされる場合は次の手順で行ってください。
※ライトハンドルのイラストで説明しています。

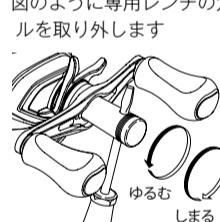
- リテナ固定ボルトを緩めてリテナを取り外します。



- 付属の専用レンチをナットに差し込んでください。



- 図のように専用レンチの穴にドライバーを差し込み、ナットを緩めてハンドルを取り外します。



※取り付け時は逆の順番で行ってください。

※レフトハンドルは回転方向が下図の逆（逆ネジ）となりますのでご注意ください。

お手入れ方法

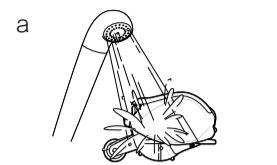
特に海水・汽水域でリールをご使用された後は、錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で釣行後にメンテナンスを行うことをお勧めします。

① 必ず竿から外してください。

使用後は、必ず竿から取り外して、真水で洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部に水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

② 水洗いしてください。

ドラグをしめ込んでから、ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしながら、シャワー等の真水で、1~2分間水洗いしてください。（図 a）



スプールを取り外し、スプールのみを水洗いしていただくとともに効果があります。スプールに水分や汚れが残ったままリールに組むと、スプールフリーが悪くなりますので、必ずふき取ってから組み込んでください。

※温水はグリスを洗い流す可能性があるので避けください。また、同様の理由でリール本体を水没させないでください。



③ 乾燥させてください。

ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしてよく水を切った後、ドラグをゆるめ、直射日光を避けて陰干ししてください。（図 b）

※直射日光、ドライヤー等は内部のムレを引き起こします。

※隙間に残った塩分や錆による固着を防ぐため、乾燥中は1日に1度はハンドルやクラッチ等、作動部を動かしてください。

④ 注油してください。

グリス、オイルは弊社純正品（下記参照）をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。

| | |
|--|--------|
| SP-003H (メンテブレーセット) | ¥1,900 |
| SP-013A (オイルスプレー) | ¥1,050 |
| SP-023A (グリススプレー) | ¥1,100 |
| SP-015L (ザルスリールオイルスプレー) | ¥1,500 |
| ※最寄りの販売店でお買い求めください。上記は2015年12月現在の品番及び税抜本体価格です。 | |

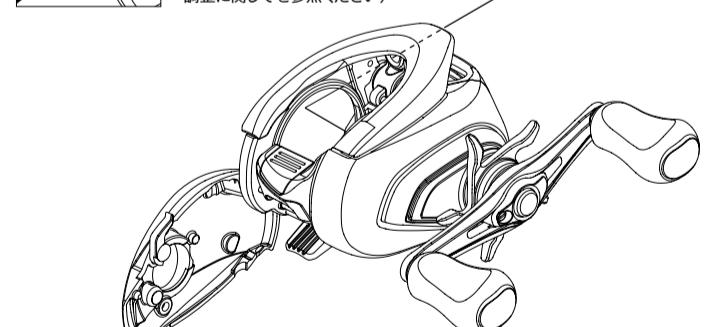
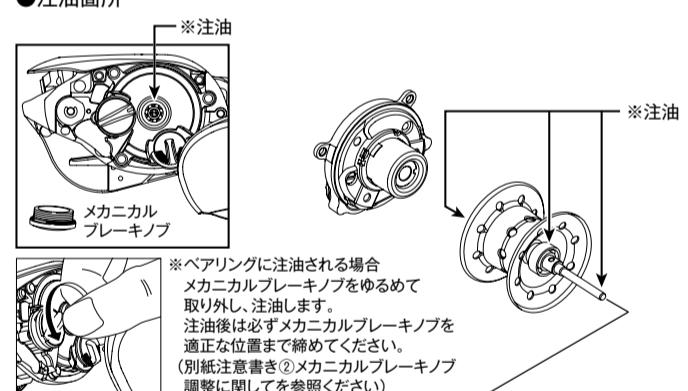
《注油上のご注意》

リールオイル、グリスがハンドルノブに付着したまま長期間放置すると、ハンドルノブが膨潤する場合がありますので、付着した場合はウエスやティッシュペーパー等で必ずふき取ってください。

図の注油箇所にはリールに付属の専用オイル、またはシマノリールオイルスプレーをまちがえないように噴霧してください。（シマノ以外のオイルは使用しないでください。）オイルはごく少量で充分です。特にペアリング部分は、あふれるようであればティッシュペーパー等で吸い取っておいてください。ドラグ部にはオイルは注さないでください。

※イラストは実際の製品と異なる場合がございます。

●注油箇所



⑤ 保管上のご注意

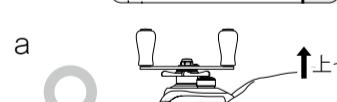
保管の際は必ず竿から取り外してください。

また、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間（自動車のトランク、ダッショボード等）に長時間放置されると腐食を起こす可能性があります。

■キャスティング方法

●正しい握り方

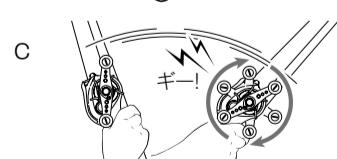
ハンドルを上向き（もしくは下向き）にして握ります。（図 a）



下記の握り方でキャストされますと、クラッチ返りが起こりやすくなりますのでお避けください。



ハンドルを横向きにしてしまうと…（図 b）



キャストの衝撃でハンドルが回転しクラッチが返ってしまいます。（図 c）

※キャスト時のクラッチ返りは、車でいえばクラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギヤの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。

※キャスティング中にハンドルでクラッチを返さないでください。ギアの破損につながる恐れがあります。ルアーが着水してからクラッチを返してください。

※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い（大きい）ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

※キャスト時のクラッチ返りは、車でいえばクラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギヤの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。

※キャスティング中にハンドルでクラッチを返さないでください。ギアの破損につ